

第Ⅰ期 中期経営計画

(令和8年度～令和10年度)



社会福祉法人

めやす箱

目次

01 中期経営計画について

02 計画期間

03 法人理念

04 沿革

05 環境分析

06 経営戦略課題

07 事業計画

08 資金計画

01 中期経営計画について

策定の経緯

- ✓ 社会福祉法人 めやす箱は、次年度創立25周年となる
- ✓ これまで理念を軸にした事業展開で、サービスの規模は大きな発展を遂げてきた
- ✓ 近年の急速な社会情勢の変化や期待される地域社会のニーズを考えると、単年度の事業計画では取り組めない多くの課題が蓄積してきている現状
- ✓ 今必要なことは、目指す将来像の共有と戦略的事業計画である
- ✓ この機に、法人の強み・弱みを分析し中期的視野に立った事業計画を策定

期待される効果

- ✓ 基本理念等ならびに事業目的を明確化し、組織に浸透させることができる
- ✓ 継続性、計画性に基づいた意識決定を推し進めることができる
- ✓ 事業の管理遂行を円滑に行うことができる
- ✓ 組織内外に説明責任を果たし、社会福祉法人の信頼を高めることができる

02 計画期間

- 令和8年度から令和10年度の3年間
- 毎年12月 取組評価を行い、次年度に向けた単年度計画を立案
- 計画期間の最終年度である令和10年度より、
第Ⅱ期 計画策定に向けた準備を進める

03 法人理念

利用者主体のニーズの追求

ご利用される皆様のニーズを尊重し、皆様が主役になれる福祉サービスを提供します
職員全員が、利用される皆様に満足していただける福祉サービスを常に追求し、より質の高いサービスを目指します

ナンバーワンの福祉サービスを目指す

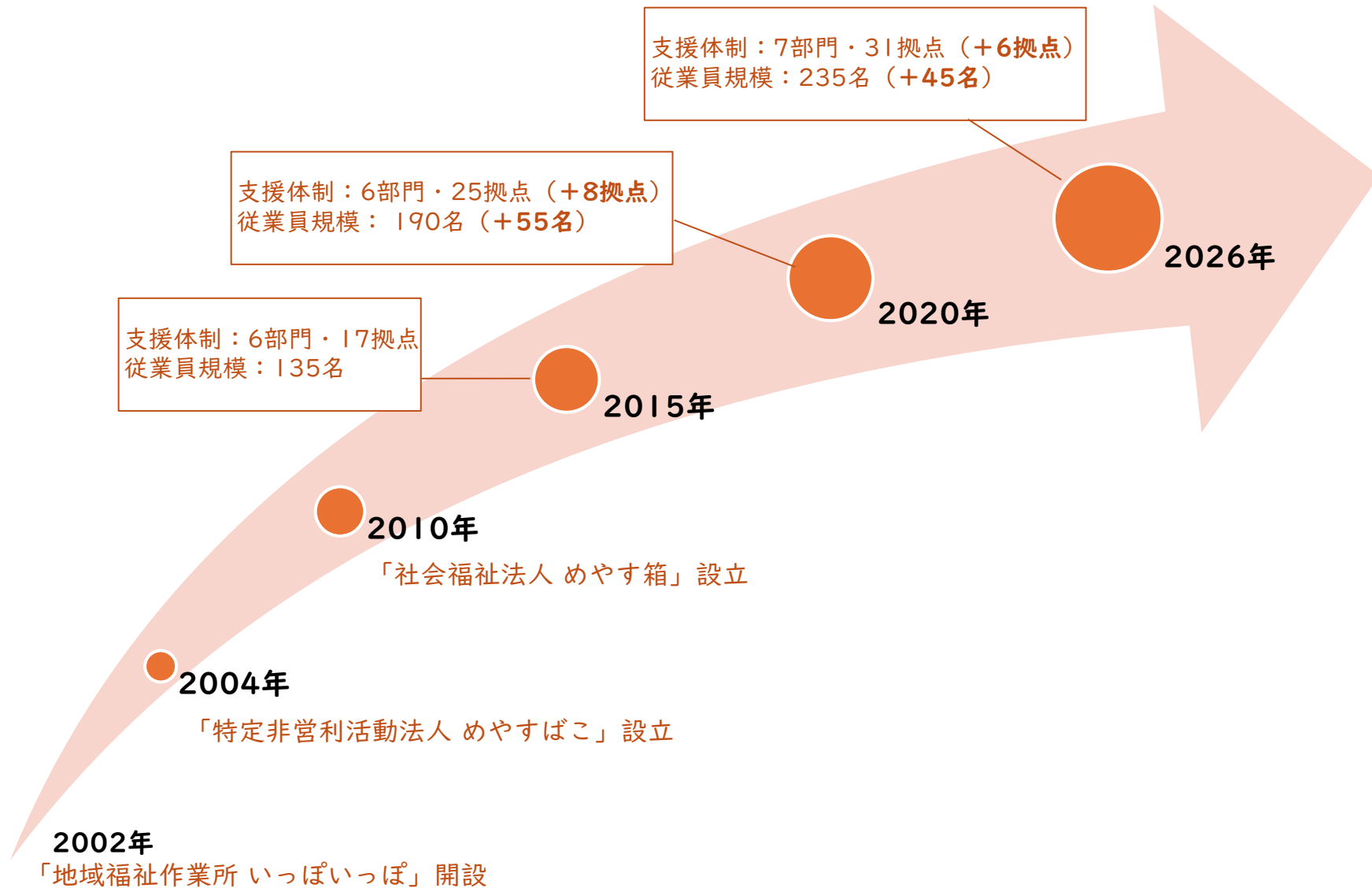
「ナンバーワンの福祉サービス」とは何かを常に考え、ご利用される皆様が満足できる福祉サービスを目指します
地域社会も含め皆様にどのような形で貢献していくことができるのか考え、新しい取り組みや新規事業に挑戦します

職員が働きやすい環境作り

職員が高いモチベーションをもって働くことができるように常に心がけます
法人内外の研修参加による専門性の向上、事業所・部門・法人での職員交流の機会があります

04 沿革

児童から成人まで一貫した障がい支援体制を強みとして成長
今後のさらなる成長へ向け、安定した経営基盤の構築が必要となっている



05 環境分析

05 環境分析 (SWOT分析)

目標を達成するための組織の内部環境や外部環境を、強み、弱み、機会、脅威の4つのカテゴリーで要因分析
強みを強化してチャンスを活かす、強みでピンチを克服するなどといった考え方で、課題を設定

	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者数は上昇傾向 ・ 福祉サービスを求めている方が多い ・ 支援の「量」から「質」を重視する傾向 ・ 倉敷市が中核市である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少、高齢化 ・ 総量規制による新規事業開設の難しさ(児童) ・ 就労継続支援B型の増加 (競争の激化) ・ 災害の恐れ ・ 求職者の減少、福祉人材確保の難しさ ・ 利用者ニーズの重度化、多様化
内部要因	強み (Strength)	弱み (Weakness)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉敷市における知名度がある ・ 行政との繋がりがある ・ 幼児期から成人期までのサービスの充実 ・ 困難事例への対応 ・ 離職率が低い、人材の定着率が高い ・ 子育てしながら働く女性が多い ・ サービスの質を高める動き ・ 自己資本比率70%超で財務内容良好 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期計画に具体性がない、職員へ周知が図られていない ・ 経営ビジョンが浸透していない(情報共有・情報伝達の仕組み作りが未整備) ・ 各層への人材育成体制の未整備 (層によってバラつきがある) ・ 幅広い福祉分野の研修は未実施 ・ 建物の修繕、改修の必要性あり ・ 災害時など、緊急時における体制が未整備 ・ 求職者の減少、福祉人材確保の難しさ ・ 広報機能の弱さ ・ 地域から見た時に閉鎖的 ・ 医療的ニーズのある重度障害者向けサービス提供なし ・ 高齢分野施策について未検討

06 經營戰略課題

SWOT分析で収集した情報を、強み、弱みに分類し、経営戦略課題を導く

項目	現状の姿		現状の課題
	強み (できている)	弱み (できていない)	
経営理念	経営理念(法人理念)が明文化されている		
	理念は、法人、福祉施設・事業所の氏名や目指す方向、考え方を読み取ることができる		
経営戦略 (方針・目標・計画)	事業計画の策定、実施状況の把握ができている	事業計画の評価・見直しが組織的に行われていない	組織的には行われていない
	中・長期的なビジョンを踏まえた工程表がある	中・長期的なビジョンを明確にした計画が未作成 職員へ周知できていない	具体的な中長期計画が策定できていない
組織活性化・ 人材づくり	グループウェア(WaWaoffice)のメール、回覧板、掲示板を活用し、情報伝達、情報共有に努めている	情報共有、情報伝達において、内容が浸透するまでの取組ができていない、徹底されていない	情報伝達方法の見直し
	人事考課制度がある	人事考課制度が、適切に機能、運用されてると言い難い	人事考課制度・キャリアパス制度のリニューアル
		職員が自らのキャリアや将来の姿を描くことができるような仕組みづくりについて、まだ完全には整備されていない	
	就労部門勉強会に他部門職員が参加するなど、部門を超えた交流、学びの場を整備し始めている	他部門との連携はあまり取れておらず、連携・協働による相乗効果までは見込めていない	部門の垣根を超えた取組の促進
		法人の中長期的なビジョンに基づいた、採用、育成計画を立てることができていない	採用・育成計画が立案できていない
技術力	令和7年度より支援サポート部門ができ、それらを中心にどの部門も学ぶ機会の確保に努めている段階である	障がいに関する専門知識を学ぶ機会・環境は、部門間で違いがある	継続的な部門を超えた研修会の実施
	少しずつICTの導入を進めている段階である	業務効率化のための環境整備(ICT、AI)に取り組めていないことが多い	ICT、AIの導入促進

項目	現状の姿		現状の課題
	強み（できている）	弱み（できていない）	
信頼性 (利用者・地域・ 関係機関・ 行政等)	地域の方にお越しいただけるイベント、研修会などを開催している	地域に向けて開かれた事業運営となっているとは言い切れない	地元地域との関係構築
	令和6年度に、法人ホームページの大幅な更新、Instagram開設を行った	ターゲットや目的に合った広報方法による、広報の成果の分析を行えていない	数字を基にした効果測定の未実施
安全性	安心・安全のための福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている		
	少しずつICTの導入を進めている段階である	生産性向上の視点に立ったICT、AIの活用について、整備できていない	ICT、AIの導入促進
	災害時のマニュアルが整備されている	災害時のマニュアルがあり、それに基づいた訓練も実施するが、実際の場面では対応の弱さが伺える	災害時に向けた体制の見直し
継続性	現段階で運営が安定しており、長期的な運営を見込むことができる		
		安定、安全な運営のための建物の修繕、改修が計画できていない	建物の修繕、改修の計画が立案されていない
公益性	実習生等の福祉サービスに係わる専門職の研修・育成について体制を整備し積極的に取り組んでいる		
		現在行っている公益事業が、地域の援助ニーズとマッチしているか確認できていない	当該地域における福祉ニーズ・援助ニーズの調査

07 事業計画

現状課題より、法人として取り組むべきこと

- ① 中期経営計画の策定
- ② 人事考課制度の改定
- ③ 採用・育成計画の立案
- ④ 計画的な建物改修、修繕
- ⑤ 情報伝達方法の見直し
- ⑥ 災害時の体制整備
- ⑦ AI・ICTの導入
- ⑧ 効果的な広報活動
- ⑨ 部門を超えた連携
- ⑩ 地元地域との関係構築

現状課題：情報伝達について見直しの必要性がある

将来の姿：情報が各所へ確実に届くことにより、情報エラーを防ぎ、円滑な運営へと繋げる

中期

ビジョンを達成するための方法（方針）	期 限	責任者	スケジュール		
			令和8年度	令和9年度	令和10年度
①発信済情報の整理、必要に応じた再発信 ②発信方法・伝達方法の見直し （情報の重要度や緊急度などを踏まえ発信方法を検討） ③発信済情報の閲覧体制の整備(WaWaofficeの活用) ④WaWaofficeの機能理解、更なる活用	①R9.3 ②R8.4～ ③R8.10 ④R8.10～	事務局	① → ② → ③ → ④ →		

単年
(令和8年度)

達成方法	期 限	実行計画	責任者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
あらゆる情報が確実に周知・把握されることにより、円滑な運営へと繋がる	R9.3	今までに発信した情報や、WaWaoffice掲載データの把握必要に応じて、情報を整理して再発信する	事務局	←→											
	R8.4～	情報の重要度や緊急度を的確に判断し、メール発信、会議での伝達など、情報に合わせて伝達方法を検討、実行する		←→											
	R8.10	今までに発信した事務連絡をWaWaoffice内で閲覧できる仕組み作りを行う（人事異動等の体制変更への備え）		←→											
	R8.10～	WaWaofficeの様々な機能を知り、効率的、生産的な活用へと繋げる		←→											

現状課題：部門を超えた連携の弱さがある

将来の姿：部門を超えて、支援の場・学びの場を共有し、相乗効果が生み出される
法人職員が交流する機会を通して、法人全体の結束力を高める

中期

ビジョンを達成するための方法（方針）	期 限	責任者	スケジュール		
			令和8年度	令和9年度	令和10年度
法人内研修の実施 部門を超えた交換研修の実施 ※リーチ中長期計画参照	R8.4～	支援サポート部門	→		
リーダー層における交換研修の検討・実施 研修を通じた課題抽出と研修内容のブラッシュアップ	R8.4～	研修委員会	→		
①フリースペース サポート校の開設・取り組み ②支援サポートセンター めやすばこ・リーチの継続的な取り組み	R8.4～	各担当	①②	→	
部門を超えた事業展開 (就労継続支援B型と生活介護の多機能型事業所の開設)	R9.9	法人本部 就労部門統括責任者 生活介護部門統括責任者 管理者		→	
法人全体イベントの企画・実施 (R8においては、創立25周年記念イベントの実施)	R8.4～	法人本部 統括責任者 事務局	→		

現状課題：地域に向けて開かれた事業運営となっているとは言い切れない
 将来の姿：法人が持つ資源を地域に還元し、地域に向けて開かれた場となる
 地域から必要とされることを通して、誰もが住みやすい地域となる

中期

ビジョンを達成するための方法（方針）	期 限	責任者	スケジュール		
			令和8年度	令和9年度	令和10年度
①児童既存の地域支援事業の継続 ②成人における地域支援の検討	①R8.4～ ②R10.3	支援サポート部門 統括責任者	① →	② →	
めやフェス、フードバンク、互近助パントリー、 地域住民向け研修会等の継続的な開催	R8.4～	地域貢献委員会	→		
保育所等訪問支援事業所の立ち上げ	R9.4	支援サポート部門	→		
①羽島拠点の建物の活用検討 ②羽島拠点の土地の活用検討 (①②地域に向けて開かれた場となることを目的に検討)	R8.4～	法人本部 管理者 事務局	→		
サポートスクール、フリースペース事業の開始・継続的な取り組み	R8.4～	地域生活部門 担当者	→		
法人成年後見受任業務実施に向けて ①実施可能かどうかの検討（見学、関係機関への事前相談） ②体制整備（内部体制、人材育成、研修受講等）	①R9.3 ②R9.4～	法人本部 相談部門 地域生活部門 事務局	① →	② →	
コーディネーター機能の確立に向けて ①コーディネーター配置及び役割の明確化 ②困難ケース対応の実績・支援実績の蓄積 ③倉敷市との委託協議・運営体制の整備	①R9.3 ②R10.3 ③R11.3	相談部門	① →	② →	③ →

08 資金計画

中期資金計画書

(単位：万円)

ビジョンを達成するための方法（方針）	内訳	8年度	9年度	10年度	3年間合計額
		予算額	予算額	予算額	予算合計額
計画的な改修工事	はれる		200		200
	スマイルライフ		500		500
グループホームめやす箱の住宅ローンの返済	GHⅢ (トマトB/K) 金利1.4%	1,153			1,153
	GHⅠ (トマトB/K) 金利1.15%		276		276
就労継続支援B型と生活介護の多機能型事業に向けた改修工事	早高		700		700
研修棟の活用	研修棟		2,000		2,000
羽島の土地活用	羽島			10,000	10,000
DX化推進		50	50	50	150
人事考課シート作成		429			429
法人成年後見業務の実施		15	10	10	35